

豊友会会報

大分市大字下郡496-38
 大分県教育会館内
 大分大学教育福祉科学部
 同窓会「豊友会」
 編集兼 園田和孝
 発行人
 TEL 556-0145
 bundai-hoyu@fuga.ocn.ne.jp
 印刷所
 (株)明文堂印刷
 TEL 533-8800

平成25年度
 評議員会
 総会

同窓意識を 豊友会の力に



事務局案を審議の評議員

「豊友会評議員会(総会)」が、5月18日、大分県教育会館で開催。役員をはじめ、各支部評議員が出席。宮崎、熊本、福岡県外支部の出席があった。

会務、決算報告、25年度予算計画予算案等が審議され、全て了承。

開会前、大分大学の外国人留学生

による「世界の歌と踊り」の披露があった。伝統衣装をまとった踊りには注目が集まり、心のこもった各国の歌には拍手が館内に響いた。

閉会に先立ち、会員物故者(70名)への黙祷で哀悼の意をあらわした。

園田和孝会長が、会員の日常活動に思いを馳せ、「支部あつての同窓会活動であることを痛感している」と、謝意。

同窓生の教員採用数の増加傾向が見られるが、会員数の減少等、活動上の諸課題を踏まえ、「同窓会のあり方を考える時期である」と提起し、会員の同窓意識の高まりに期待し、活動の深化に努める決意を述べた。

続いて、柳井智彦教育福祉科学部長が、学部で専門性を学ぶ学生の具体的な事例を報告。

相良浩四極会会長(経済学部同窓会)が来賓挨拶。議事は、田崎國男常任評議員(大分市中央支部)を議長に選び、植田幹男事務局長の諸提案について審議した。特に意見もなく、終了した。

尚、植田幹男事務局長の退任に伴い、豊田正孝氏が後任に。

この度、平成二十五年春の叙勲に際し、大分市教育委員会の推薦を戴き、瑞宝双光章拝受の栄に浴しましたところ、早速に

瑞宝双光章 勲章伝達式に出席して

大分市 土江弘文 (昭和34年卒)

豊友会会長園田和孝様からご祝意を賜り、誠にありがとうございました。

去る五月十三日、文部科学省関係の受賞者七百十五名とその同伴者が国立劇場大劇場に集まり、下村博文文部科学大臣から勲記・勲章の伝達を受けたところでありました。

その後、皇居に参内し豊明殿にて天皇陛下に拝謁の栄誉とともにねぎらいつつ、誠にありがたうと存じるとともに、これも偏に、中学校勤務時代、教育行政勤務時代、校長会事務局長時代等、長年に亘って皆様より頂きましたご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝していただいております。

今後は、この栄誉に恥じないよう微力ながら尽力してまいります。

四月二十九日付で、文部科学大臣から瑞宝双光章授与の決定通知を受けてから、伝達式までの期日が短く、その上、連

休を挟んだために準備もそこそこ慌ただしく上京したのが夢のようでありました。

受賞後、会員の皆様をはじめ、多くの方々からご懇篤なるご祝意を頂戴しまして、誠にありがたうと存じるとともに、これも偏に、中学校勤務時代、教育行政勤務時代、校長会事務局長時代等、長年に亘って皆様より頂きましたご指導ご鞭撻の賜物と深く感謝していただいております。

今後は、この栄誉に恥じないよう微力ながら尽力してまいります。

「長生きをしても元気で体の部品が丈夫でなければ楽しくない」白寿のお祝いにお伺いした時の先生のおことばである。

人生の価値は「何年生きたか」ではなく、生涯を通じて「何を考え、何を成してきたか」を知ることである。

明治12年、現由布市に生まれ、教育者を志し大分師範学校へ、初任校の津久見長目小学校をはじめとして「子供に自信を持たせる教育」をめざし現場教員16年。軍国主義から民主主義への大転換の中政治、経済、教育、

社会全てが混沌の一語に尽きる時代である。教育者として価値観を追求する中で組合運動の推進に打ち込む。すべて暗中模索であり、賃金や勤務労働条件もさることながら「米をよこせ」が組合要求の柱であった。

一九五四年世界平和会議が召集され日教組から岩手県鈴木氏と大分の田尻氏の2名が出席するよう選ばれた。時の細田



まつわるエピソード等詳細に書くと豊友会報すべてを埋めてしまう。

まとめると、県教組委員長から県議会議員(43歳)二期、参議選失敗、

徳寿知事が3万円の賤別を出したことは当時ヨーロッパに行くことがいかに大変かを物語る。ちなみに田尻先生の初任給45円の時代である。先生に

社会党県書記長、一九六六年木下知事から副知事就任を強く請われ受託した。ところが県議会自民党が否決。知事は「参事」を創設し、事実上の副知事とな

り、農業、工業、県政策を進める新産業の中心となり見事完成させた。多くの県民からその政治的力を高く評価され、木下知事退任に伴う知事選に推薦され立木勝氏と争っ

同七月から教育界を中心に大分県教育会館理事長に選任され、12年間に亘り大分県教育界の殿堂として、日本一の「会館」と内外共に高く評価されている。引退後、130年の歴史と伝統を誇る大分大学教育福祉科学部同窓会長としてまとめられた。

冒頭に述べたように先生は「人生の達人」だと豊友会顧問 古屋 虔郎

百二歳の人生を偲ぶ

昭和の大分県政推進者 田尻 一雄 先生

平成25年度 事業計画

一、会員意識の高揚

(1) 大学との共催事業の実施

・積極的な参加を呼びかけ

・大学との連携による参加者増

「豊友会報」の年3回発行(7月、11月、3月)

(2) 幅広い年齢層に定評ある「編集者の参加意識を高める編集の工夫」ホームページの積極的な活用

(3) 同窓会情報と活動の活性化

・魅力ある内容検討に努める

・交流の場として利用できるような

二、組織拡大・強化

(1) 組織の拡大

・県外組織の充実、会員の拡大

・未加入会員の把握と参加の呼びかけ

・高校会員の参加拡大

(2) 支部総会の開催

・定期的な開催

・講演会の開催

・計画的な開催に努める

(3) 職域支部の拡大

・個人会員支部のない地域の拡大

(4) 関係団体との連携

・大分大学の他の学部同窓会との連携

・留学生友の会への支援

(5) 総会、交流会等支部活動の参加

・支部間の情報交換や連携の促進

・支部未加入者の対応

・支部女性代表者会の開催

・会員の積極的な活動推進

・支部組織の拡大

三、その他

(1) 支部総会の開催

・定期的な開催

・講演会の開催

・計画的な開催に努める

(2) 若い会員への広報と積極的参加

・個人会員支部のない地域の拡大

(3) 職域支部の拡大

・個人会員支部のない地域の拡大

(4) 関係団体との連携

・大分大学の他の学部同窓会との連携

・留学生友の会への支援

(5) 総会、交流会等支部活動の参加

・支部間の情報交換や連携の促進

・支部未加入者の対応

・支部女性代表者会の開催

・会員の積極的な活動推進

・支部組織の拡大

四、その他

(1) 支部総会の開催

・定期的な開催

・講演会の開催

・計画的な開催に努める

おめでとう
 ございます

栄誉に輝く同窓生諸氏

瑞宝小綬章	田中 昌敏 (昭和31年卒)	日出町
瑞宝双光章	甲斐 義信 (昭和38年卒)	別府市
瑞宝双光章	土江 弘文 (昭和34年卒)	大分市

傘寿

加齢とともに使う言葉に変化が生じている。家内に対して、以前は使うのに努力を要した「ありがとう」という言葉が自然に口に出すことができる。

自分が出る世界がだんだんと狭められていく日々の中で、家内の助力が身に染みはじめたためかなと思われる。

使うことが少なくなっただけで「なぜ」「どうして」と言う言葉である。それに比して「まあいいか」「そんなもんだらう」と言う言葉が増加している感がある。その背景には、完璧に仕上げることでできなくなり、妥協の産物としての言葉である。

しかし、困った言葉もある。「そんなはずではなかったのに……」である。

私は趣味として囲碁を打つが、その時この言葉が浮かんでくる。以前、二目程度かせていた相手と打つ時、こちらが下手となつてくると、特にひどくてくるのである。この思いが強くなると、あせつたり、冷静さを失なつたり、むきになつたり、血圧が上昇する形相をていするものである。

楽しむはずが趣味が逆に自分を苦しめる。

考えてみると、現状を素直に受け入れていない時である。現状を前向きに明るく受け入れた時は安定して穏やかに対応でき、結果もよいものがある。

こう言ったことは、言葉の問題ではない。生き方の課題であろう。今後どうあればよいのやら。